

被爆者は 核兵器廃絶を 心から求めます

人類は今、破壊への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器・化学兵器について、使用・開発・生産・保有を条約、議定書などで禁じてきました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄
生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望
あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に
被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核
兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、
国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残す
と確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表

坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三【以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員】

田中熙巳【日本被団協・事務局長】、郭貴勲【韓国原爆被害者協会・名誉会長】

向井司【北米原爆被害者の会・会長】、森田隆【ブラジル被爆者平和協会・会長】

サーロー・セツコ【カナダ在住】、山下泰昭【メキシコ在住】

<この署名は、国連に提出します>

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える
核兵器廃絶国際署名
(略称：ヒバクシャ国際署名)

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し
廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

氏名	住所
	岩手県
	岩手県
	岩手県
	岩手県
	岩手県

<この署名は、国連に提出します>

※この署名は、これ以外の目的では使用しません

2017年度一次集約：10月末、二次集約：2018年3月末

取り扱い団体

「ヒバクシャ国際署名」にご協力ください

【岩手の代表呼びかけ人】

伊藤 宣夫 岩手県原爆被害者団体協議会会長（岩手の会代表）
三田健二郎 岩手県原爆被害者団体協議会副会長（〃 代表代行）
加藤 善正 岩手県生活協同組合連合会会長理事
野中 靖志 平和環境岩手県センター議長
浮田 昭彦 原水爆禁止岩手県協議会代表理事

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会

幹事団体：岩手県原爆被害者団体協議会 岩手県生活協同組合連合会
平和環境岩手県センター 原水爆禁止岩手県協議会

事務局：岩手県生活協同組合連合会 〒020-0690滝沢市土沢220-3 ☎019-684-2225 fax019-684-2227

岩手県原爆被害者団体協議会 〒020-0021盛岡市中央通2-1-13 ☎fax 兼用019-622-4635